

藝える 16

藝える 第16号

藝大で
とっておきの曲を

東京藝術大学

東京藝術大学広報誌『藝える』第16号

発行日
2025年3月21日

編集・発行
東京藝術大学『藝える』編集部

編集長
藤崎圭一郎
♪「Main Titles」映画「ブレッドランナー」より／ヴァンゲリス

アートディレクション
有山達也
♪「Hobo's Lullaby」／岩井宏

デザイン
伊藤実桜（アリヤマデザインストア）
♪「Love Is for Me」／ザ・ミーターズ

写真
長野陽一（表紙、P1-11）
♪「ブラックバード」／ザ・ビートルズ
富田里美（P12-29上）
♪「ブルー・ミルク」／ステレオラブ

松下穂香（P32）
♪「語りつぐ愛に」／薬師丸ひろ子

イラスト
山田だり
♪「サリー・ガーデン」／ウィリアム・バトラー・イェイツ（詞）

文・構成
大谷道子
♪「Seasons of Love」ミュージカル「RENT」より／ジョナサン・ラーソン（詞曲）

志村香織
♪「我に返るスキマを埋めろ」／TOMOVSKY

牧口じゅん
♪「満ちてゆく」／藤井風

校閲
西村 knack 雅彦
♪「あわれな移民」(I Pity The Poor Immigrant)／ボブ・ディラン

編集
小林沙友里
♪「Jupiter」『Planets』より／ジェフ・ミルズ

※ ♪は推し曲

事務局
東京藝術大学企画総務課

印刷
シナノバブリッシングプレス

藝える



「藝える」は「」と読みます。今号は「音楽を聴く」がテーマで

す。ずっと「蓄音機のコンサート?」「昔のSPレコードなんて」と思っ

ていましたが、実際に本学図書館でその音を聴いてびっくり&うっとり。自分の浅

はかさを恥じました。本学教員のおすすめ曲の記事もつくりました。僕のおすすめは

ヴィヴァルディの「L'estro Armonico」。調和の幻想とも調和の靈感とも訳されるこ

の曲、特に朝イチで聴くのがよいです。いやホント、原稿を書くとき靈感というかイン

スピレーションが湧いてきます。編集長特権で、もう一曲は裏表紙に。連載「授業

SANKAN」はお休み。連載終了ではありません。代わりに芸術未来研究場の新

しいスペースを紹介。アート界の相撲部屋「藝大部屋」がおもしろい。どすこい!

藤崎圭一郎／美術学部デザイン科教授・本誌編集長

特集

目次

01

とっておきの 曲を聴こう

02

素晴らしきかな SPレコード

12

学生に聴いてもらいたい わたしの推し曲

小谷元彦 山田香 箕口一美 酒井敦 福中冬子 鈴木純明 田村文生
三界秀実 押元一敏 齋藤芽生 岡本正之 日高剛 尾池亜美 吉井瑞穂
筒井武文 渡邊五大 古川聖 長嵩寛幸 小沢剛 折笠敏之 三上亮
ジェシー・ホーガン 橋本圭也 須賀みほ Sputniko! 長谷川香
谷川創平 齋藤龍一 箭内道彦 亀川徹 毛利嘉孝

26

芸術未来研究場の 新しい拠点ができました 藝大部屋と本部棟1階

34

お知らせ

特集

とって
おきの
曲を
聴こう



素晴らしきかな

SPレコード

人はなぜ、記録するのでしょうか？

それは、残したい「何か」があるからです。

100年前の人たちも、私たちも、それは同じ。

藝大附属図書館が収蔵する3万枚ものクラシック

レコード。蓄音機にかけるたびよみがえるのは

演奏家たちが奏でた音と、時代の息吹。

芸術に人生を賭けた人々の息遣いがいま、ここに。

今回は藝大附属図書館が誇る秘蔵レコードを発掘

し聴いてみようではないか！という趣向。レ

コードのことならこの方、とお招きした特別

ゲストとともに、図書館の扉を叩く。

「いったいどんな音が聞けるのか、楽しみです

すね」と言う阿部昌和さんは学生時代からク

ラシックレコードに傾倒、海外のコレクター

とも交流を重ねて貴重盤の通信販売を長年手

がけてきた筋金入りの音楽愛好家だ。

阿部さんが取り扱っていたのは近年若者の

当方は、普段はYouTubeやストリーミング

オーディオ頼りのド素人。恐縮の旨を伝える

と、阿部さんは「知らないほうがいいですよ。

そのほうが本当にいい」と不敵な微笑を浮か

べる。ど、どういう意味？ おののきつつ通

された図書館の一室には、年代ものの蓄音機

が複数台、ずしりと鎮座していた。

蓄音機といえばイメージする、ラッパのつ

いたおなじみの形。卓上型のもの。脚のつい

た大小のチェスト形4台は、まるでアンティ

ークの家具のよう。蓄音機にこんなに種類が

あることすら、恥ずかしながら知りませんでした。

なかでも大型の2台、アメリカ・ビク

ター社のヴィクトローラ・クレデンザと英国・

グラモフォン社のHMVは、阿部さん曰く

「蓄音機の両横綱」。藝大にあるのは、

1925〜30年前後の製造だという。

「以前にコレクターのお宅で見せてもらった

ことがありますが、これほどきれいな……いや、最高の状態のものは見たことがないです





LPの33回転、EPの45回転に対し
SPレコードは1分間に70～90回転
(写真のエジソン・レコードは80回
転)。再生は片面3分、長いもので
も5分ほど。短さゆえに没頭できる。

ね」と阿部さん。「当時は、輸入すると家一軒が建つくらいの値段だったそうです」と話すのは、図書館でレコードの管理を担当するNさん。同じく担当のOさんとともに音源を管理し、蓄音機で聴くクラシック音楽のコンサートなどを企画している。

「では、最初はフレッシシュをお願いします」
阿部さんがリクエストの筆頭に挙げたのは、ハンガリー出身でヴァイオリニスト必携の教本の著者としても有名なカール・フレッシシュの演奏盤。曲は、スペイン民謡の「ホタ」。
エジソン製蓄音機のゼンマイ（藝大所蔵の蓄音機はすべて手動の機械式）が巻かれ、ターンテーブル上で回り始めたレコード盤に、静かに針が落とされる。

なんというか、圧倒的に「生」

流れ始めた、艶やかなヴァイオリンの音色……えつとですわね、ひと言でいうなら、これは「生」です。生。なにしろ、デジタルリマスタリングだのハイレゾだのとかしい現代。100年近く前の録音や機材で再生する音って、味はあるけど露^{もや}のかかったような



阿部昌和

あべ・まさかず 1952年千葉県生まれ。幼少時からレコードに親しみ、のちにクラシックレコードに傾倒。92年より貴重な初期盤を扱う通信販売「Grey List」を、2007年からはスイスTHORENS社製レコードプレイヤーの修理・修復を手がける「Grey Audio」を主宰している。

ん、これ、違う素材ですか？「さっきのはダイアモンド針ですが、これは竹針。ほかに鉄製の針、サボテンの棘でできている針もあるんですよ」とNさん。へえー。流れ出す音はこれもまた、ふつくと豊かな音色。同じレコードを、アメリカ製

感じなんじゃ……と想像していたんですが、意外にも生演奏にとっても近い皮膚感覚。弦の音は艶やか、伴奏のピアノも一音一音が真珠のように粒立っているじゃないですか。ゼンマイを回し、再生する時間はSPレコード片面がおよそ3分間。一同、しばし陶然となる。「素晴らしいですね。機械音はしますが、高

い音がうまく馴染んでいる。つまり、耳障りな音がぜんぜんしない。レコードも装置も、すごくいい状態です」(阿部さん)
続いて、同じフレッシュ演奏の別のレコードを。フランスの作曲家フォーレの「子守唄」はドイツ盤なので、ヨーロッパ製の蓄音機HMVで再生する。針をよく見ると……

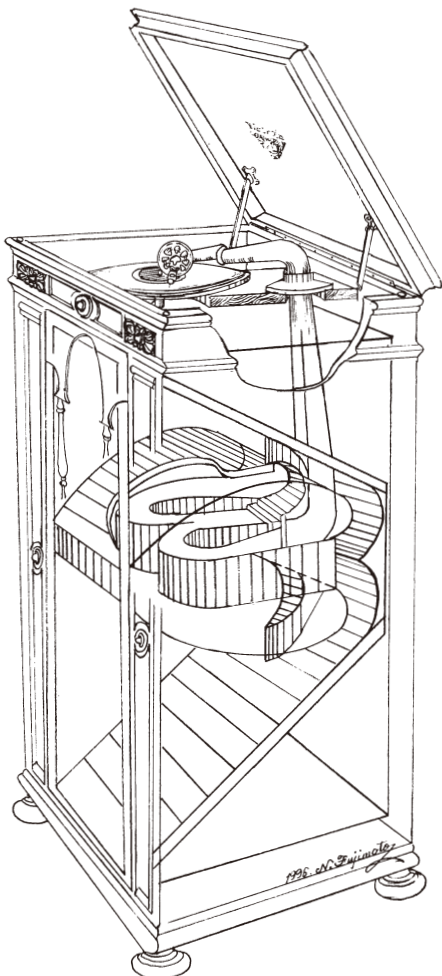
のクレデンザでも再生してみる。
「アメリカのレコードにはこれがいけないけど、イギリスやヨーロッパのレコードはやはりHMVでしょうね。レコードは、聴く側に対して押してくるような録音が多いんですが、このドイツ盤は『引く』感じ。こちらが吸い込まれるような、聴かせる力を持っている」と阿部さん。やはりレコードマニアである本誌アートディレクター・A氏は「窓開けて、ウイスキーなんかちよつと飲みながら……そのまま昼寝できたら、最高」と目を閉じている。
続いて、声楽曲のレコードをプレイ。「上蓋を閉めて」「前の扉(スピーカーにあたる部分)も閉めましょう」「いや、もうちよつと開けて」などなど、阿部さんからは細かな



A氏。「レコードをいつでも聴ける部屋が藝大にあったらなあ」



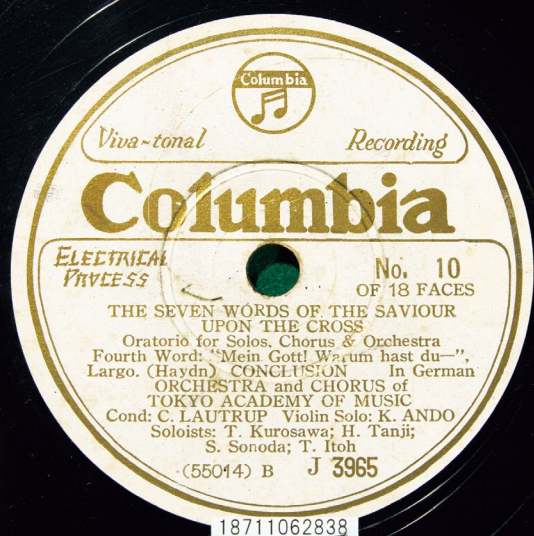
藝大の2台のクレデンザのうち1台は野澤氏の遺族からレコードと同時に寄贈されたもので、もう1台（写真）はコレクション整備の際に行ったクラウドファンディング（2016～17に実施）で購入。コンサートで活躍している。



クレデンザ透視図。音を刻み込んだレコードをゼンマイの動力で回し、溝に針を当てて発生する振動を内部に折りたたんだジュラルミン製の板（振動板）に伝え、空気振動を増幅させて音を再生。電気を使わない、シンプルにして完璧な装置。図は三浦玄樹著、マック杉崎監修『図説・世界の蓄音機』（三玄社 1996）より。

鉄針より盤に優しい竹針。1回かけるたび、先を専用カッターで切って使用する。





東京音楽学校のオーケストラ＆合唱隊の演奏を収めたレコードには、ソリストの名もきちんと記載。レーベル右下の「J」は日本でプレスされたレコードの証し。

リクエストが。ダイヤルでボリュームをコントロールできるレコードプレーヤーと違って、蓄音機は物理的な調整が必要なのだ。

「この時代に録音をした人たちは、音を模倣するというより、創造していますよね。そして、それには感性に頼った部分が相当あったはず。どんな音なら耳に快いか、聴く人が共感できるか……レコードでしか出せない美しさをつくり出そうとしているようです。反対

に、今は計測的な周波数特性を気にしすぎて、こうした音楽的な感性がどんどん薄れていつているのかもしれない」(阿部さん)

感性で音を受け取り、感性で再現する。それがSPレコードと蓄音機の音の生つぽさの理由だとしたら、今の時代の我々も、時空を超えてその輪に加わっている……ちよつとうっとりするお話。だが、なにせストックは3万枚、先を急がねば！ ということで、図

書館の収蔵庫へと向かった。

「まだ未整理なものも多いですが、ヴァイオリニストの有名どころは名前ごとに分類されています」とOさん。おお、あるある。収蔵庫にレコードが、うなるほど！ 3万枚のうち、およそ2万枚はひとりのコレクターの旧蔵で、呼び名は「クリストファ・N・野澤SPレコードコレクション」。2013年に没したレコード研究家でありコレ

クターであったクリストファ・N・野澤氏(野澤登として『どくとるマンボウ昆虫記』にも登場する生物学者でもある)が、およそ半世紀かけて収集したもの。ヴァイオリンを中心にチェロ、声楽などの演奏を収録した世界的にも稀少な音源の数々が、未来の芸術家の育成に役立ててほしいと藝大に託されたのだ。

コレクションは「人」を表す

「サラサーテ、キロガ、エルマン……ファン・マネンもありますね」。阿部さんは次々にケースを開き、盤面に忙しく目を走らせる。

「ルネ・ベネデッティ、ああ、キュルティもあるんですか。この時代に、どうやって情報を……相当、事情に通じておられたんでしょうね。そして、どんな好みをされていたのが、レコードを見るとよくわかります。特徴は、甘美な演奏が多いこと。ロマンチストだったのでしょう。女性演奏家も多いですから、きつとフェミニニストですね。このダラーニなんか、見つけたときは相当うれしかっただろうなあ……一日中いられますね、ここ」

貴重な音源にぜひ触れてほしいと、図書館



旧型レコードの特徴

はエジソンでは6mm、SPでは2mmという厚み。でも素材（SPは樹脂のシェラック=カイガラムシの分泌する樹脂成分）がもろく割れやすいので取扱いは要注意。



SPレコードにはジャケットがなく、デザインが楽しめるのはレーベル面とスリーブ。おしゃれなPATHÉとODEONはどちらもフランス製。

では学生向けに1回30分ほど蓄音機でレコードをかける蓄音機試聴サービスを提供中。そういえば以前から図書館に通ってはアナログ音源を聴いている声楽の学生が……と話していたら、ちょうどその姿が。ということ、大学院音楽研究科修士2年の及川泰生（たけせい）さんをハントし、蓄音機の部屋へお招きした。

ベルギーの巨匠デュボワ。フランスの女性チェリスト、ラディッセ。在学中の及川さんにとってはおよそ100年前の先輩である東京音楽学校管弦楽部によるオラトリオ（キリスト教音楽の一形態）の演奏盤も。聴き入

る及川さんは「よくわかりませんが、音質はデジタルが優れていても、音の奥にある空気感や音楽を聴いて楽しむという感覚はSPレコードのほうが優れているんじゃないか」と感じるという。若く純粋な感性を遠い昔の音源が揺さぶる、この事実だけでも胸熱だ。

「その通り。僕の店にも、たとえばオーディオ好きの男性が夫婦で来て、夫は値段が高い装置の音を一生懸命聴きますが、連れて来られた奥さんがSPレコードの音を聴いて『こっちのほうが絶対にいいわよ』と言っていたりしました。先入観なく聴いたほうが、

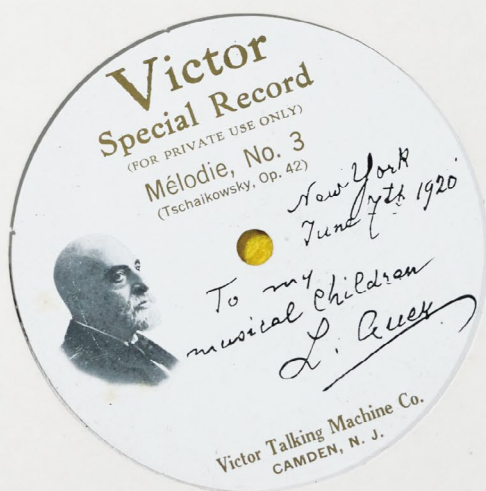
絶対に感じるものがあるんです」（阿部さん）知らないほうがいいって、そういうことだったんですね……。至福の時間は、当然のごとく翌日へと延長になった。

技術は進化した。心はどうか？

翌2日目も、野澤コレクションのレコードを一同で聴き入った。ヴェチエイ。ヌヴー。ブーシュリ。エネスク。ハシッド。エルマン。流れるヴァイオリンの音に浸り、至福の時が過ぎていく。レコードを引き取りに行った際、亡き人の部屋はリビングルームはおろか、台

1845-1930
LEOPOLD AUER
Violinist

U.S. Victor
Special
pressing
1920



Leopold Auer's only recordings were made privately by Victor Talking Machine Co. after the 75th birthday concert in June 1920. Only five copies of two titles (Tchaikowsky *Mélodie* and Brahms Hungarian Dance No.1), a personal gift to five of his "Musical children"—EDDY BROWN, MISCHA ELMAN, JASCHA HEIFETZ, FREDDY STEINWAY and EFREM ZIMBALIST.

The Library of
CHRISTOPHER N. NOZAWA

Rec. 7th June, 1920

W. BOGUTSKAHEIN, at the Piano

試聴したSP盤

※曲名、作曲者名、演奏者名(☆ピアノ伴奏 ★オーケストラ伴奏)、
録音年または発売年/レーベル/発売国/レコード番号の順に表記しています。
※無記名の「」内は阿部昌和さんのコメント。

1 『スペイン民謡組曲』より「ホタ」

マヌエル・デ・ファリア(パウル・コハンスキ編曲)
カール・フレッシュ(ヴァイオリン)☆
1928/Edison/USA/80894
スペイン語で「跳ね上がる」の意そのままのリズムの舞踏音楽。
「フレッシュの腕には楽器に宿る魂を引っ張り出す力がある」

2 「子守歌」

ガブリエル・フォーレ
カール・フレッシュ(ヴァイオリン)☆
1925/Polydor/Germany/65983
フランス近代の国民的作曲家の作品。フレッシュの弾く旋律は
「HMVだとよりエロティックに変わる。流れるのは、静かな吐息」

3 「菩提樹」

フランツ・シューベルト
ユリア・クルブ(メゾソプラノ)☆
1926/Electrola/Germany/EJ41
シューベルトの名曲。阿部さん所望のオランダの歌手ユリア・クルブの歌唱は「音程やプレスは正直微妙だけど親近感が魅力」

4 「All through the night」

Old welsh air
ユリア・クルブ(メゾソプラノ)★
1914/Victor/USA/64414
同じく、ユリア・クルブによるウェールズ民謡。子守唄のような内容で、クリスマスソングとして歌われることもあるという。

5 「ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ第4番」

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ
アルフレッド・デュボワ(ヴァイオリン)☆
1932/Columbia/Japan/J8102
バロックの父・バッハの代表曲。「リエゾン(音と音のつながり)が自然。音色の押し引きに波があり、まったく聴き飽きない」

6 「ナイル」

グザヴィエ・ルルー
リュシエンヌ・ラディッセ(チェロ)☆
1930/Odeon/France/166369
ラディッセはハリウッド映画にも出演した美貌のチェリスト。
「歌いたいように歌い、漂い、目に見えない景色を奏でている」

7 『十字架上のキリストの最後の7つの言葉』より

第4話「神よ、なんぞ我を見棄てたまひし」

フランツ・ヨーゼフ・ハイドン
安藤幸(ヴァイオリン)、東京音楽学校管弦楽部、
チャールズ・ラウトロブ(指揮)
1931/Columbia/Japan/J3965
管弦楽に加えドイツ語の合唱も。「日本人らしい歌唱だと思います」と及川さん。ヴァイオリンソロは幸田露伴の妹・安藤幸。

8 「エスパーニャ」より「タンゴ」

イサーク・アルベニス(フリッツ・クライスラー編曲)
マヌエル・キログ(ヴァイオリン)☆
1931/Pathé/France/9938
スペイン出身のヴァイオリニストが奏でるタンゴは、さすがの
艶麗ぶりにうっとり。「まるで恋文のよう。これはもうポップス」

9 『スペイン民謡組曲』より「ホタ」

マヌエル・デ・ファリア(パウル・コハンスキ編曲)
マヌエル・キログ(ヴァイオリン)☆
1931/Pathé/France/9938 ※8と同じ盤
1と同じ曲を、本場出身のキログでも。「楽器に歌を語らせている。演奏者が本当の賢資を知らないと、こういう音は出ない」

10 『4つの小品』op. 3より第3曲「カンツォネッタ」

セリム・バルムグレン

フェレンツ・ヴェチェイ(ヴァイオリン)☆

1934/Polydor/Japan/35103
フィンランドの作曲家による“小さなカンツォーネ(歌)”を
ハンガリーのヴァイオリニストが演奏。電気録音された1枚。

11 「ギター」

モーリッツ・モシュコフスキ(パブロ・デ・サラサーテ編曲)
フェレンツ・ヴェチェイ(ヴァイオリン)☆
1911/Fonotipia/Italy/62509
ヴェチェイによる機械録音盤。「芸術というよりは芸。今、こんなふう演奏したら、藝大には受からないでしょう(笑)」

12 『オルフェオとエウリディーチェ』より「メロディー」

クリストフ・ヴィリバルト・グルック
ジネット・ヌヴー(ヴァイオリン)☆
1938/HMV/UK/DA4453
フレッシュに師事したフランスの女性奏者の芯の強さを感じさせる音。「若くして飛行機事故で亡くなったのが本当に惜しい」

13 「ノクターン第2番 op. 9-2」

フレデリック・ショパン(パブロ・デ・サラサーテ編曲)
ジュール・ブーシュリ(ヴァイオリン)☆
1906/Zonophone/France/X87911
キログ、ヌヴーなど有名ヴァイオリニストを多数育てたフランス奏者ブーシュリの古い録音。歌うように自由に優雅な演奏。

14 『ヴァイオリン協奏曲第5番』より第3楽章「メヌエット」

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト
ジュール・ブーシュリ(ヴァイオリン)☆
1906/Gramophone/France/237905
同じくブーシュリによる録音。「いかにもフランス人らしいモーツァルト。演奏に国ごとの趣味が色濃く出るのがおもしろい」

15 「ボエム op. 25」

エルネスト・ショーソン
ジョルジュ・エネスク(ヴァイオリン)☆
1929/Columbia/France/DFX125
「このフランス盤が血と肉ならば、日本盤は骨と皮のような生真面目さ」。国により雰囲気が変わるのもレコードの醍醐味。

16 「気まぐれな女」

エドワード・エルガー
ヨゼフ・ハシッド(ヴァイオリン)☆
1940/HMV/Australia/EA3286
『威風堂々』のエルガー作曲。「わがままだけいい女だぜ、そんな語り口。ハシッド自身も、恋に身をやつした男だった」

17 『スペイン舞曲集 op. 21』より第3番

パブロ・デ・サラサーテ
ミッシェル・エルマン(ヴァイオリン)☆
1915/Gramophone/France/2-07941
「アンダルシアのロマンス」という名の曲を陰影豊かに。「エルマンはこの曲が好きで、何度も粋な節回しを吹き込んでいる」

18 歌劇『アフリカの女』第4幕より「おお、パラダイス」

ジャコモ・マイアベーア
ユッシン・ビョルリング(テノール)★
1937/Victor/Japan/RL-42-A
「アンダルシアのロマンス」という名の曲を陰影豊かに。「エルマンはこの曲が好きで、何度も粋な節回しを吹き込んでいる」

19 「伝説」

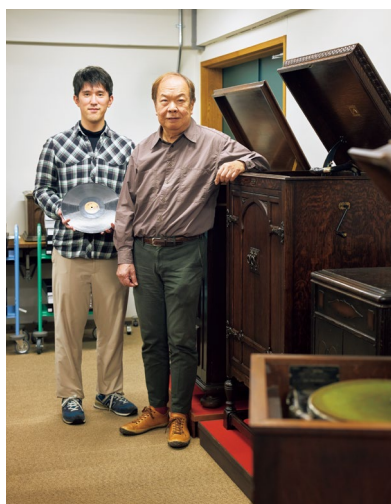
ヘンリク・ヴィエニャフスキ
ファン・マネン(ヴァイオリン)★
1914/Polydor/Germany/2047(2-2047)
ドイツで成功したスペイン人奏者の演奏は、装飾音多めで華やか。「好き勝手に弾いた音。編集できなかった時代の一発録音」

所のシンクの下からバスルームの中までもがSPレコードで埋め尽くされていたという。

「僕は物欲があまりなく人に渡すのが好きなほうだったけど、野澤さんはやはり執念の人ですね」と阿部さん。演奏者の発する音の振動をダイレクトに盤に刻んでいた機械録音から、マイククロフォンで集めた音を電気信号に変換する電気録音に移行し、SPレコードは廃れLPレコードへ、そしてデジタル録音されたCDや音楽配信へと移り変わっていった。その間およそ

150年は、藝大の歴史、すなわち西洋の芸術を定着させてきた日本の近現代文化史にほぼ相当する。技術は格段に進歩した。では、芸術に感応する心のほうはどうだろう？

「有名な演奏をいつでも気軽に聴けるようになった今は、『この曲はこういうもの』と一般化されて、逆にはみ出したことがやりにくくなっているように思います」と及川さん。



左：グリークラブ経験者の阿部さんと及川さんは声楽つながりで意気投合。「20代でこの音源を聴けば、きっと人生が変わりますよ」
右：阿部さんが通販のカatalogに執筆したレコードガイドの集大成『GREY LIST』は上下巻で全3200ページ。誠光社 STORES ほかで販売中。



「誰かのつくったものが目に入るから自然と模倣になって、それを乗り越えられるか……一緒だね、どの分野でも」とA氏も頷く。

「自分のなかの何を伝えたいか。SPレコードの時代は、演奏家がその気持ちをどんどん膨らませて演奏していたのは確かでしょう。もうひとついえるのは、この時代の演奏家がかような演奏ができたのは、聴く観客のレベルも相当高かったから。でも……100年前の録音を、こうして今、東の果ての学校の一室で、僕らが聴いて、感じている。人間のすることというのは、そのくらいすごいものなんです。きっと、演奏者も喜んでいるんじゃないでしょうか。そして、野澤さんも。少なくとも、僕にとっては最高の2日間でしたね。一生のなかでこんなに幸せなことはいんじゃないかっていうくらいに」(阿部さん)

時をかけて熟成された音に触れたいと思えば、いつでもここで再現できる。「ケースの中に収められているだけではもったいない。レコードは聴いてなんぼ、聴いてもらったなんぼですよ」と阿部さん。人生を変える音に、ぜひあなたも出会ってほしい。

学生に聴いてもらいたい わたしの推し曲

さまざまな科の教授・准教授・講師に
学生に聴いてほしい曲を挙げてもらいました。
ジャンルも多様、すすめる理由もさまざま。
知っている曲にも、新たな発見があるかも。

構成=大谷道子[OM]、志村香織[SK]、
牧口じゅん[MJ]
イラスト=山田だり



クイーン&デヴィッド・ボウイ
1981発売

僕にとって音楽は単独で存在するものではなく、必ずビジュアルイメージを伴っています。例えばこの曲のMVは、世界の混沌さと秩序、崩壊と抗争、そして愛にまつわる無声映画やニュース映像などのサンプリングによって構成されています。すると、曲を聴いたときにそのMVに加えて、同じ手法でつくられたMVや使用された映画を想起することもあります。もちろん、デヴィッド・ボウイの過去の名シーンの数々も。そういったイメージを予想外に更新したのが、2023年に日本で

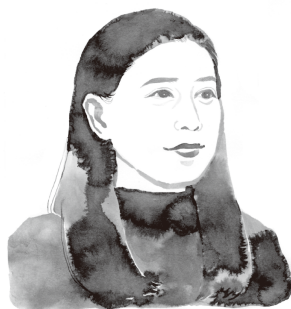
公開された映画『アフターサン』。11歳の娘が父と2人で過ごした夏休みの思い出を描いた作品で、肝となるシーンでこの曲が流れるのですが、映画の世界観によって抽象度の高い歌詞の奥深さが引き出されていて、感動のあまり視界がにじみました。固着しているイメージが突然剥がれて、音楽がそれまでとはまったく違った新鮮な角度から見えてくる。そんな豊穣な体験を通して、音楽は使い方次第でもともと持つ多面性が増し、いくらでも普遍性を獲得していけるのだなと感じました。[SK]



小谷元彦

美術学部彫刻科教授

解釈が更新されることの豊潤さ
「アンダー・プレッシャー」



山田香

演奏藝術センター准教授

食わず嫌いを直してくれた作品

「誰も寝てはならぬ」

『トゥーランドット』より



ジャコモ・プッチーニ（作曲）
ジェームズ・レヴァイン（指揮）
メトロポリタン歌劇場管弦楽団（演奏）
フランコ・ゼッフィレリ（演出）
1987年録音

それまでは何か退屈なものとか、自分の生活とは関係ない昔の話だと思っていたんです、オペラって音楽としては面白いけれど感情に訴えられるかという点と難しいなと感じていました。思い込みを壊されたのは、大学3年のとき。自分でオペレッタを書いたことをきっかけに出会ったテノール（夫です）を通して、アリアの名曲「誰も寝てはならぬ」を知りました。これは何だと衝撃を受け、オペラ『トゥーランドット』全編をDVDで観たところ、幕が開いてないのに、前奏の5音から引き込まれました。第1幕はいきなり処刑場面から始まりおどろおどろしい舞台が広がっていたんです。まったく知らなかった新しい世界でした。これが、食わず嫌いはもったいないと思うきっかけになりました。

今は、オペラを含め藝大で行われる演奏会を収録する音響研究室に在籍し、自分でもオペラの作曲を続けています。プッチーニがこの題材を扱ったらどうなるかという発想で、いつか作品を書いてみたい。そう思うようになるほど、音楽家活動に影響を与えてくれた作品です。[M]



箕口一美

大学院国際芸術創造研究科教授

コロナ禍の闇を照らした生配信

『大地の歌』

グスタフ・マーラー（作曲）
マキシム・バスカル（指揮、音楽監督）
ル・バルコン（演奏）
ステファヌ・ドゥグー（バリトン）
ケヴィン・アミエル（テノール）
2020年配信・録音



コロナ禍が世界中を覆いはじめた2020年の7月。誰もが生きのこるために、自分を家のなかという棺（coffin）にconfiner（閉じ込める）しなくてはならなかったあのとき、若き指揮者マキシム・バスカルと彼の仲間たちがバリのサン・ドニ大聖堂に集い、演奏したのが『大地の歌』でした。本来なら恒例の夏の音楽祭が催され、多くの聴衆のざわめきが反響したはずの大伽藍は、文字どおり「がらんどう」。でも、ラテン十字が見守る空間で奏でられた音楽は、ライブ・ストリーミングを通して、耳をそばだ

てていた私たち聴衆のひび割れた心に染み込んできたのです。

春が来れば愛しい大地は芽吹きて覆われる。光は永遠に、永遠に、永遠に……終曲「告別」が流れる頃には、涙もなく涙が頬をstreaming。この演奏を聴いた世界中の仲間との交信によって、ひとりじゃない、皆がつながっているのだと再確認することもできました。音楽の持つ力をもう一度、いや、新たに感じさせてくれた彼らの演奏に、音楽と時代、社会とのつながりを模索する私は、今も心から感謝しています。[OM]



フランツ・シューベルト（作曲）
ヴィルヘルム・バックハウス（ピアノ）
1969年録音

酒井敦

音楽学部指揮科教授

音楽家の生きざまが聞こえる

「即興曲変イ長調 d.935-2」

『ヴィルヘルム・バックハウス 最後の演奏会』より



僕の話なんてどうでもいいので、とにかくこの曲、というかこの演奏を聴いてほしいんです。バックハウスの演奏に興味がなかった僕が、これを聴いて一変しました。

この演奏会で、彼は体調不良のため前半を途中で打ち切りましたが、後半のプログラムを変更して弾き切りました。そして1週間後に亡くなったんです。特に印象的なのは、最終日の最後の曲。冷徹なまでに完璧な演奏から「鍵盤の獅子王」と呼ばれてきた彼が、人生賛歌のような人間味あふれるシューベルトを弾く。85歳での演奏に、戦争や政治的な難局を乗り越えた彼の人生が重なっている。芸術家としての生き方について考えさせられました。音楽家として目指すべきは、技術だけでなく、音楽を通じて共感を生み、理解を深め、平和を広めることだと感じ、自分もいつかはそんな演奏をしたいと思わせてくれます。音楽は聴いた人が何かを感じ取ってくれたらそれでいいと思う。だからこの演奏について話してはCDを渡し、布教活動をしています。今回も読者プレゼントにしたいぐらい（笑）。[M]



福中冬子

音楽学部楽理科教授

時代に向き合ったオペラの力

『兵士たち』(Die Soldaten)

ペルト・アロイス・ツィンマーマン（作曲）
ペルンハルト・コンタルスキー（指揮）
ハリー・クプファー（演出）
シュトゥットガルト州立管弦楽団（演奏）
1989年録音



たオペラは、ヨーロッパでは公共のものとして定着し、音楽家たちにとってオペラをつくることは、時代に批判的に向き合う行為でした。『兵士たち』が初演された1960年代は、音楽界では伝統的なオペラに対する反動が大きかった時期。しかし、市民の力が隆盛する一方、それを管理しようとする体制

オペラ『兵士たち』をはじめて観たのは留学時代。資料調査でスイスに行ったとき、下宿先で学者仲間と観たDVDでした。明確に設定されていませんが、おそらく舞台は18世紀。軍隊と関わることになった市民たちが歪んだマチズモにのみ込まれていく物語は、鳴り続ける不穏な音楽に直接的な暴力描写が相まってとにかく凄まじい迫力。こんな作品があったのか！と衝撃を受けました。もともと貴族の娯楽として始まっ

この時代に、作者のツィンマーマンはあえて正面からオペラの可能性に賭けたのでしょうか。主体性を持って時代や芸術に向き合う、その意志の力こそ、今、私たちが持たなくてはならないものだと思えるのです。[OM]



アルフレート・シュニトケ（作曲）
1991年発売（右の緑のジャケットのもの）



鈴木純明

音楽学部作曲科教授

学生時代に出会った一生の宝物

『合唱のための協奏曲』



「純明くん、いい曲があるから聴いてみて」。藝大の1年生だった1991年、好きだった同級生からそう言って薦められたのがこの曲でした。ロシアの、それも無伴奏の合唱曲というので、すごく興味を持ち、恋をしていたこともあり何百回も聴いたんですよ。聴き比べもしたのでCDは14枚も集まりました。

自分の合唱曲にもすごく影響を与えた作品です。シュニトケはドイツ人の両親を持ちながらロシアで学び、激動の時代を生きた作曲家。この曲はロシアの無伴奏合唱の伝統とイタリアのパロック様式を融合させ、さまざまな時代が反映されている。その多様性にも魅了されました。

今の時代、じっくりと音楽だけを聴く喜びを感じる機会が減っていると思います。真つ暗な中で瞑想するように、40分間の曲をじっくり聴いてみてほしい。音楽に関わる者として、そんな原点に立ち返ってもらいたいという願いも込めて選びました。学生時代に何度も聴いた作品は一生の宝になると思うので、自分にとっての大切な曲を皆さんにも持ってもらえたらうれしいです。【M】



オリバー・ネルソン
1961年発売



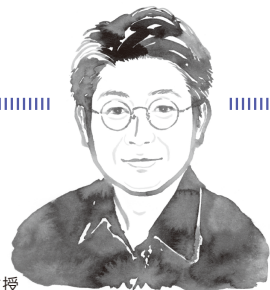
田村文生

音楽学部音楽環境創造科教授

怪しげなハーモニーが魅了する

「ストールン・モーメンツ」 『ブルースの真実』より

音楽の世界で生きている人には音楽の早期教育を受けている人もいますが、僕はそうではないんです。では、どんなふうに音楽と出会ったのかを振り返ったときに、印象に残っているのが、小学生の頃に父がよく聴いていたこのアルバム。夜、布団に入っていると隣の部屋から聞こえてきて、「大人の音楽って不思議な響き。面白いな」と思っていました。父は平凡な会社員でしたが、若いときにルイ・アームストロングの初来日公演に行ったと聞きましたから、ジャズにハマっていたんでしょうね。このアルバムがジャズの巨星たちが参加した名盤であることを知ったのは何年も経ってからのことでしたが、オリバー・ネルソンがつくり出すシンプルでありながら怪しげなハーモニー、フレディ・ハバードの空間を切り裂くトランペット、そしてエリック・ドルフィーの異次元的なフルートに魅了されたことが、後に私が現代音楽の世界に足を踏み入れた遠因であったといえるかもしれません。「ストールン・モーメンツ」はもちろん、収録曲のすべてが名曲であり、名演奏であると思います。[SK]



三界秀実

音楽学部器楽科(クラリネット)教授

自らの個性を見つけるきっかけを

「間奏曲ホ長調 作品116第4番」 (Intermezzo In E Major, op.116 no.4) 『Johannes Brahms auf Welte-Mignon gespielt』より

先日『ブラームスを演奏する』という本を読んだら、ブラームスの時代の演奏スタイルが現代とまったく違っていたという話があり、このCDが紹介されていました。ピアノロール(ロールペーパー式自動ピアノ)を使い、当時の演奏を現代の楽器で再現した録音です。情報が限られていた時代性でしょうか、演奏家独自の解釈や個性など多様性が感じられ、とても新鮮でした。例えば、クララ・シューマンの弟子、ファニー・デヴィスは独特の風格をもってブ

ラームスの音楽を表現していました。ブラームスが晩年に出会ったクラリネット奏者、リヒャルト・ミュールフェルトは、現代と異なりピブライトを多用していたとか。彼の演奏は残っていませんが、当時のスタイルに触れることで、クラリネット奏者として想像力をかき立てられますね。現代では音楽がグローバル化していて、演奏から地域性や個性が薄れつつあります。個性は音楽において重要です。学生たちには過去の演奏を知り、模倣するのではなく自分なりに解釈し、多様なアプローチを目指してもらいたいです。[MJ]



ヨハネス・ブラームス(作曲)
ファニー・デヴィス(ピアノ)ほか
1909年録音(上記の曲)



押元一敏

美術学部デザイン科教授

美に蓋をするのは悲しすぎて

『大序曲「1812年」作品49』

キーの柔軟さにも共感しています。
今回、曲の背景を調べたところ、
1812年、ナポレオンのロシア遠征
によって焼失したモスクワ中央大寺院
の再建と勝利を祝うものと知り躊躇
しました。それであれば、ムソルグス
キーの組曲「展覧会の絵」の「キ
ーの大門」も好きなのでこちらを挙
げるべきではと揺らぎがあったんです。
ただ、芸術に関わる人間として、戦
争によって素晴らしい文化や美に蓋を
する行為や、社会情勢を意識した思
考自体に悲しいものを感じ、あえてこ
の曲を残しました。皆さんがどう受
け取るのか、考えるきっかけになれば
と思います。【MJ】

批判を受ける可能性について
は考えた上で、あえてこの曲を
選びました。チャイコフスキーの
作品は制作しながらよく聴いて
いたんです。なかでもこの曲は、
大砲はドンドン鳴るし鐘の音が
するし、荘厳なスケールと迫力
が圧倒的だし、オーケストラで
凄いなと衝撃を受けました。
私はデザイン科ですが、作品で
は日本画を描いています。限定せず
いろいろなことをやってきて、その結果
日本画にたどり着いたので、音が鳴
るなら何でもありというチャイコフス



ピョートル・チャイコフスキー（作曲）
アンタル・ドラティ（指揮）
ミネアポリス交響楽団（演奏）
1880年作曲、1958年録音



齋藤芽生

美術学部絵画科（油画）教授

視座を与えてくれる昭和の名曲

「アカシアの雨がやむとき」

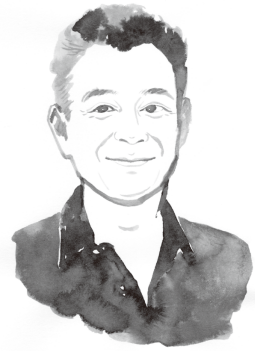
カラオケは学生との楽しい課外授
業です。音楽をBGMのように聞き
流すのではなく、歌詞と向き合える
ところもいい。私の持ち歌の昭和
歌謡を彼らが受け入れてくれる
のは、時代を超える歌から何
かを読み取る心意気が彼らにあ
るのでしょう。
私が生まれる前の作品ですが、
色褪せない翳りと格調があるこの
曲をたまに歌います。中学生の頃、
深夜のテレビでこの歌が昭和の学園
紛争の映像とともに流れていて、歌
詞がグサリと刺さりました。母が持
っていた『現代風俗史年表』という

本で調べてみると、安保闘争時の学
生たちの虚無感のなかで大ヒットを
遂げた曲とのこと。この出会いをき
っかけに、私は近現代史を調べ、歌
謡曲を集めるようになりました。
近現代史への興味が抜け落ちてい
る学生は多いのですが、今の自分の
価値観や生活が突然生まれたわけでは
なく、過去の見知らぬ人たちの土
台の上にあるということを意識する
のは有意義なこと。表現とは必ずし
も一過性のものではないのではない
か、普遍とは何か、といった視座を
与えてくれるかもしれません。

【SK】



西田佐知子
1960年発売



岡本正之

音楽学部器楽科（ファゴット）准教授

音楽はきれいごとではない

今回、この録音を約30年ぶりに聴きました。初めて聴いたとき、壮絶な生々しさに恐怖と脱力感を覚え、「何度も聴ける演奏じゃない」と封印していたのです。ぐったりするような聴後感は今も変わりませんでした。これはバーンスタインとベルリンフィルの唯一の共演となった1979年10月のライブ録音で、CDのリリースは92年。発売当時、すぐ入手して聴きましたが、それまで聴いていた他の録音とはまったく異なるものでした。1楽章では生死の境を彷徨うような靈気、4楽章では生へのわずかな望



みも絶たれ現世への訣別を決めた作曲家の眼差しがグロテスクなほどのリアリティをもつて胸に迫るのです。演奏にはエリート集団とは思えない瑕疵も多く、興奮状態だったであろうメンバーの人間としての叫びや、単に審美的にまとめられただけな

いマーラーの音楽の真実を見事に引き出した指揮者の声や息づかい、足踏みの音も生々しい。人生、音楽はきれいごとだけではな

『交響曲第9番』

グスタフ・マーラー（作曲）
レナード・バーンスタイン（指揮）
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団（演奏）
1979年録音

出会いは20歳頃、まだ音楽を専門的に学んでいないときでした。バーンスタインがウィーン・フィルでこの曲を指揮する映像を観て、その情熱から作曲家を大切にしていることが感じられ、深い尊敬を抱くように。そして、1995年にアジアユースオーケストラで初の海外ツアーに行った際、台湾でこのCDを見つけたんです。オランダに留学してい

た頃は、毎晩のように聴いていました。ホルン奏者にとっては、オーケストラのオーディションの重要なレ

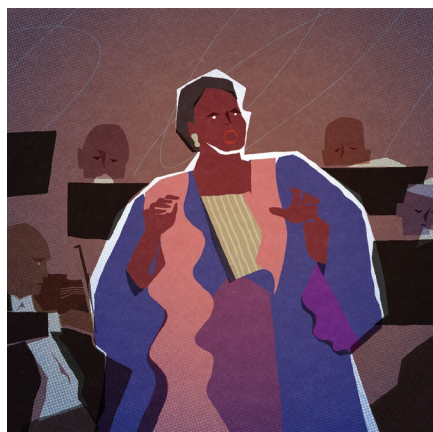
パートリーということもあり、何度も聴いて学びました。この録音以外を聴いても、何かが足りないと思うてしまうのはそのせいでしょうか。曲自体も私の音楽人生のなかで絶対的な位置を占めており、今後も演奏し続けたいですね。マーラーが自らの人生をかけて残したい思いが詰まっている気がして。他にも好きな曲はいくつもありますが、例えば、飛行機に乗って美しい夕焼けを見たときに思い出す曲はと考えると、これなんです。聴くたびに20代の頃の初心を思い出せるし、新たに前に進む勇気もくれる、そんな大切な存在です。[MJ]



日高剛

音楽学部器楽科（ホルン）准教授

人生のなかの絶対的な位置を占める曲



グスタフ・マーラー (作曲)
ズービン・メータ (指揮)
ニューヨーク・フィルハーモニック (演奏)
ジェシー・ノーマン (ソプラノ)
1989年ライブ



尾池亜美

音楽学部器楽科 (ヴァイオリン) 講師

孤独の美しさを知る

「私はこの世に捨てられて」
(Ich bin der Welt Abhanden Gekommen)

この曲に触れたのは、大学2年生のとき、今年退任された声楽科の平松英子先生と共演させていただいたのがきっかけ。美しいメロディが記憶に残り、のちにCDを探して、ドイツ語の歌詞の内容を知りました。

私はこの世に捨てられて、静かな地でひとり安らいでいる……当時、家族と離れてひとり暮らしをしていたこともあり、孤独とは世間から離れて平和に暮らすことであるという詞の世界には「そういう考え方もできるのか」という発見がありました。<YouTube上で聴けるアメリカのソプラノ歌手、ジェシー・ノーマンの歌唱は、楽譜より少し低い音程。寂しそうですが、どこかさわやかです。

大学は多くの仲間に出会える場所しかし、卒業すれば学校からも先生からも離れ、精神的にも経済的にもアーティストとして自立しなければならぬ孤独な時期を迎えます。しかし、孤独は決してネガティブなものではなく、実は自分の生命の根源や、そこにある美と触れ合っている状態。ひとりであることを肯定できれば、辛さはなくなる——そんな道を示してくれる一曲だと思います。[OM]



吉井瑞穂

音楽学部器楽科 (オーボエ) 准教授

自然体の巨匠は、努力家だった

「英雄」

『ショパン：ポロネーズ集』より

ルービンシュタインは、私が音楽の道に進むきっかけとなった演奏家。CDが流通しはじめた頃、小学生の私がお小遣いで買ったCDのなかに、彼の弾くショパンのポロネーズ集がありました。中学生になったある日、テレビで彼のドキュメンタリー番組を見ました。圧倒的な実力はもちろん、完璧なカリスマ性やスター性を備えた伝説のピアニスト。驚いたのは、50歳を過ぎても自分の録音を聴いた彼が、ミスの多さを反省して練習し直し、演奏に磨きかけたという逸話でした。不動の地位を築いた神的存在のピアニスト

トがさらなる極みの境地へ向かうために練習する、という精神性に感銘を受けたんです。

いちばん好きな「英雄」をはじめ、その演奏はショパンの神髄をついていながら決してこれ見よがしでなく、ある意味、とても自然体。伝説になるのはこういう人なんだと思います。

あの頃、演奏が残されたのはごく限られた巨匠のみで、音源になっていないものを聴いていけば間違いはなかった時代です。今の学生は多くのなかから選り出さなければならぬから、大変だなと思いますね。[OM]



フレデリック・ショパン (作曲)
アルトゥール・ルービンシュタイン (ピアノ)
1964年録音

モーツァルトが今の時代に生きていたら、映画を撮っていたでしょう。ドラマ感覚に鋭敏な人だと思うんですね。『コジ・ファン・トゥッテ』は、2人の男が恋人の忠誠を試す物語。登場人物は6人だけで、愛と欲望、誘惑というテーマを小さな世界に閉じ込めています。軽やかでありながら深い意味を持っていて、特に感情の二重性、三重性にも感銘を受けま

した。誰かにとって深刻なことでも、傍から見ると笑いの対象になる。そんなふうに見え方が移動しつつ、どんな悲劇でも最後は音楽の美しさで快楽に浸ることができるんです。中学時代からこのオペラを聴いていて、長らくベーム指揮のフィルハーモニア盤がベストでしたが、ヤーコプス盤とクルレンツィス盤が登場し、愛聴盤が変わりました。甲乙つけ難い



筒井武文

大学院映像研究科(映画)教授

映画の理想郷が広がる世界へ

『コジ・ファン・トゥッテ』



ですが、今回はクルレンツィス盤をお薦めします。特にレチタティーヴォ(曲と曲をつなぐ話すような独唱)が音楽的に雄弁に表現されている。すべての音楽が物語を伝えるために生きていると感じますね。特に第1幕のフィナーレはドラマティックでかつ美しい。男たちが別人に扮して服毒したふりをし、互いの婚約者に哀れみを請いながら激しく迫る。女性たちの心はかき乱される。本当にわくわくどきどきします。これは僕にとっては映画の理想郷でもある。『コジ』を組み込んだ劇映画を撮るのは、夢のひとつです。[M]



渡邊五大

大学院美術研究科(美術教育)教授

AI台頭の時代にこそ美術教育を

「ぼくの好きな先生」



RC サクセション
1972年発売

この曲は忌野清志郎さんの高校時代の美術の先生がモデル。生徒の話にじっと耳を傾ける先生に惹かれ、清志郎さんは美術部員でもないのに、放課後の美術室で絵を描いていたそう。バンドにのめり込む清志郎さんの将来を心配した母親が先生に相談すると、「大学に行っても遊ぶんだから、4年間は好きなことをやらせてあげましょう」と説得したとか。そういう指導者と生徒の関係って理想的だなと思いました。

小中学校の美術の時間で自分の作品を先生から否定されるのって傷つきますよね。算数や国語の間違いを指摘されるのとは訳が違う。美術の教員を目指す人には、いい美術体験を生徒たちに創出してほしいです。

美術教育は実は美術の専門家を目指す人以外にも大事で、なぜなら論理的思考だけではたどり着けない想像力が磨かれ、多様性理解や協働性が身につくから。AIが台頭していく世の中では肝になると思いますよ。藝大の使命は世界で活躍する芸術家や音楽家を育てることだけど、裾野を広げる活動も両輪で行っていかなくてはと感じています。[SK]

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(作曲)
テオドル・クルレンツィス(指揮)
2013年録音(右の青いジャケットのもの)





Irian Jaya の諸々の部族
1993年発売



古川聖

美術学部先端芸術表現科教授

音楽の構造の普遍性を感じさせる曲

「Kaleluknye und limna」 『Musik aus dem Bergland West-Neuguineas / Irian Jaya』より

研究資料として常に古今東西の音楽を探しては聴いています。これは約30年前に買った、インドネシアの一部であるイリアン・ジャヤと西部ニューギニアの山岳地帯に住む人たちの民族音楽をフィールド録音したものの。エイボ族によるこの曲をはじめ、興味深いのが、録音の時点で彼らは西洋の文明とは一切接触していないのに、音楽の構造の核となる部分は西洋のそれと同じであること。地域や文化が違っても、根本的な音のシステムは人類にとって普遍であると確認できます。

そもそも音楽の構造は人間の認知に関係していて、脳が「音楽だ」と認識したものしか音楽になりません。彼らの音楽も東大寺のお水取りの音楽も最新のポップスも本質的な構造は同じで、そういう意味では音楽って非常に保守的なんです。社会はあつという間に進んでいくけど、人間なんてそんなに短い間に変わるものではない。私たちは音楽という逃れられない認知に根差したものを持っていて、そういった軸と、外側で進化していく事象とのズレを楽しんでいるのだらうと思います。「SK」



長瀧寛幸

大学院映像研究科(映画)教授

悲しくもなく、楽しくもなく

「ラジオのように」 『ラジオのように』より

ブリジット・フォンテーヌ
1969年発売



フランスの前衛シンガー、ブリジット・フォンテーヌとジャズグループのアート・アンサンブル・オブ・シカゴのコラボレーション。間章というジャズ評論家がライナーノーツを書いていて、大学時代に興味を持ちました。シャンソンなんて門外漢だったけど、聴いてみたら衝撃を受けて。土着的なリズムとメロディに、悲しくもなく楽しくもなく、かといってクールでもない、静寂な歌声がいいんです。「世界は寒い」という絶望めいた歌詞も若者心をくすぐる。しかも、そんなふうに高踏的に見え

て、来日ライブに行ったら明るいオバちゃんという印象で(笑)。世の中はそんなに単純なものじゃないぞと痛感させられました。「ラジオのように」は、いわば「SNSのように」ですね。今は世の中がめちゃくちゃで、価値観が180度変わるようなことも起こりかねない。ヒューマニズムの底が抜けたところで、何を指針にして生きていいのかわからない。一方的な意見に加担することなく、悲しくも楽しくもなく生き続けていくには、気力と体力が必要だなと思います。「SK」



セロニアス・モンク・セプテット
1957年発売



小沢剛

美術学部先端芸術表現科教授

渴望が時を経て豊かさを生む

「ルビー・マイ・ディア」 『モンクス・ミュージック』より

中学生のとき、植草甚一さんが監修した『レコード・ジャケッツ・ライブラリー』という、300枚以上のレコードジャケッツを収めたデザイン集をもらったんです。洋楽はやつとビートルズを聴き始めた思春期の頃。すごく惹かれて、何百回も眺めていました。ジャケッツの向こうにどんな音楽があるのか、当時は聴くすべもなく、いつしかジャケッツのデザインを眺めて音楽への想像を膨らませるようになっていました。このアルバムのジャケッツには、サブスク音楽配信サービスで数十年前に再会。例のデザイン集のどのページに載っていたかまで明確に思い出せるのに、当時想像した音は何も思い出せません。聴いてみたら、静謐ななかに音がうねり出ていく気持ちのいい音楽。ひとりの時間をこんなに静かに輝かせてくれる音楽があったとは。無知も甚だしいですね。10代のある意味美しい経験が心のなかに長く生きていて、今になって豊かな体験につながる。それもまた人生の面白さ。あのジャケッツ集の体験のおかげでずっとこれから起こるだろうから、楽しみです。[SK]



折笠敏之

音楽学部作曲科准教授

まともではないジョーク

「Come to Daddy」



エイフェックス・ツイン
1997年発売

子どもの頃から音楽と理系が好きで、中学卒業後は音楽高校に行きたかったんですが、親に反対されました。理系の大学に進んだものの、やっぱり音楽をやりたいなと思い、文転して大学を受け直しました。今は作曲科でコンピュータ音楽の実技も教えているので、理系を学んだことが生きていますね。

大学時代にDJをやっている友人がいて、この曲のMVを友人宅で観ながら語り合ったのをよく覚えています。まるで悪夢のような強烈なMVで、エイフェックス・ツイン自身は冗談から生まれたビデオだと言っているけど、CGはゼロでありながら完成度が高すぎるジョーク。楽曲はというと、ものすごくクオリティが高い。ドラムの音を切り貼りして逆再生するなど手が込んでいて、ドラムベースが流行ってきている当時においても先駆的でした。

藝大で音楽を志す学生のなかには、ひと昔前までは電子音楽を敬遠している人が多かったけど、今は垣根がなくなってきました。この曲も現代音楽とマッチする部分があるので、映像とあわせてぜひ。[SK]

須賀みほ

美術学部芸術学科教授

「Water Drums 1」 『Heart of the Forest』より

Baka Forest People of Southeast Cameroon
1993年発売

自然と遊ぶ人の姿が見えるように思えて好きな曲です。

まだまだあります！ わたしの推し曲

Sputniko!

美術学部デザイン科准教授

「Idioteque」

レディオヘッド
2000年発売

エレクトロニカを基調にした前衛的な作品で、環境問題や技術革新が引き起こす現代社会の不安感がテーマになっていて、かっこいい。歌詞のなかで繰り返される「Who's in a bunker?」というフレーズも、直面する危機や未来への恐怖を鮮烈に描いている。

長谷川香

美術学部建築科准教授

「Happy End」

坂本龍一
1981年発売

小さい頃に聴いて以来、とても好きで何度も聴いています。自分にとってはHappy Endとは思えない、なんとも魅力的な曲なので、聴くたびに、Happy Endとはどんなものなのだろうと、考えさせられます（気に入った方は、同曲の美しい旋律を引用したSEKAI NO OWARIの「Like a scent」もぜひ聴いてみてください）。

三上亮

美術学部工芸科（陶芸）教授

「Lake of Fire」

ミート・パベッツ
1984年発売

ニルヴァーナのアンブラグドで取り上げられた曲で、オリジナルはグランジ感あるこのミート・パベッツ。カート・コバーンのボーカルは素敵だが、オリジナルの下手くそ具合は、聴くほどに良い味わいを増すはずです。歌詞内容もストレートななかにユーモアがあります。



ジェシー・ホーガン

美術学部絵画科（油画）准教授

「イマジン」

ジョン・レノン&プラスティック・オノ・バンド
1971年発売

雲のかけらを想像して——「雲が滴り落ちることを想像する。その雲を入れる穴を自分の家の庭に掘る」。これは詩ではありません。私にとって詩とは名詞や形容詞ですが、これは動詞です。つまりそれをしなければいけないのです。それらはすべてインストラクションで、それをするによってあなたははやっと理解しはじめます。（訳＝西澤三紀）

橋本圭也

美術学部工芸科(染織)教授

「Colors」

宇多田ヒカル
2003年発売

私が好きな曲。染織の教員だけに「色」を推してみました。

亀川徹

音楽学部音楽環境創造科教授

「スターダスト」

『クリフォード・ブラウン・ウィズ・ストリングス』より

クリフォード・ブラウン・ウィズ・ストリングス
1955年発売

25歳で夭折した天才トランペット奏者、クリフォード・ブラウンが、亡くなる1年前、1955年にストリングスをバックに録音したアルバムの最後を飾る曲です。スタジオ内で全員が同時に録音し、編集もしない当時の録音手法としての粗さはあるものの、デジタル技術を駆使した現在の音楽にはない“息吹”を感じます。もし彼がまだ生きていたら、私が現在取り組んでいる立体音響で録音してみたいと思いますが、モノでのこのクオリティを果たして超えることができるのか、この曲を聴くたびに自問自答しています。

毛利嘉孝

大学院国際芸術創造研究科教授

「アナーキー・イン・ザ・UK」

セックス・ピストルズ
1976年発売

1976年のピストルズのデビュー曲。パンクというジャンルをつくった。当時は若者の感情の単なる爆発、破壊衝動の表現としか捉えられていなかったが、今では現代美術や実験音楽、そして哲学・思想のなかで再文脈化されている。芸術の概念を根底から変えた一曲。



谷川創平

大学院映像研究科(映画)教授

「風をあつめて」

はっぴいえんど
1971年発売

なんか藝大っぽいかな?と思って。軽く。

齋藤龍一

美術学部芸術学科准教授

『ミサ曲口短調』

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ(作曲)
ジョン・エリオット・ガーディナー(指揮)
イングリッシュ・バロック・ソロイスト(演奏)
1985年録音

天あるいは(あるかどうかわかりませんが)天国から降ってくるような、または天に連れて行ってくれるような音楽。

箭内道彦

美術学部デザイン科教授

「Fly Me to the Moon」

Various Artists
1954年～発売

この世界でいちばん好きな曲です。切ない言葉。浮かぶ情景。美しい旋律。ドリス・デイ、フランク・シナトラ、ダイアナ・クラール、エミ・マイヤー、宇多田ヒカル……アーティストの数だけ違う Fly Me to the Moon になる。あなたの Fly Me to the Moon も聴かせてください。

クリエイティヴ・アーカイヴ

クリエイティヴ
アーカイヴ

循環

多様な
アー
新た
研究を

センターが学内の恒久的なアーカイヴ基盤
(ハブ) となって、国内外の芸術系大学や
研究機関、アーティストや研究者、地域社会
との共創ネットワークを構築し、過去の表現
から新たな企画や作品制作、共同研究が
持続的に生まれる仕組みを構築していきます。



上野キャンパス
本部棟1階へ
ようこそ



藝大が「相撲部屋」を開設？

あらためまして、春です。すべてのものが芽吹き、動きはじめる季節。さかのぼること2年前の2023年4月、「芸術が社会のためにできることは何か」を求めて立ち上がり、産学官連携による数々のプロジェクトに取りかかった藝大の新部門「芸術未来研究場」『藝える』でもたびたび取材してきたこの組織、3年目の春を迎えてどう発展しているのか。気になっている人も、きっと多いはず。

まずは、新しい「場」ができていること、ご存知でしたか？ 藝大正門前から都道（地域の方々の尽力により、今春「藝大さくら通り」と命名されることが決定！ 祝!!）を谷中方面に歩いて5分、かつて日展の施設だったビルの一階には、何やら呉服店のような日除け暖簾が……「藝大部屋」？

「はい、部屋です。お察しのとおり、名前は相撲部屋のイメージで日比野（克彦）学長がつけました。英語では？ そのまんま、geidai-beya(笑)。地域の中にあって、朝稽

古だと扉が開いていて、必ず誰かがいて、終わったら皆でそこでちゃんこを食べてて、みたいなイメージですね」

そう語るのには、大学院美術研究科グローバルアートプラクティス専攻（以下、GAP）教授にして国際連携担当の副学長、今村有策先生。東京都の文化政策に長年携わり、今もグローバルに世界を飛び回るこの方、自らをこの部屋の「世話焼き係」と名乗ります。21世紀も始まってだいぶ時が経ちますが、ほんのり、というかだいぶ昭和ネーミング……でも、あえてトンがった名前を選ばないところに、ハードルの低さを感じられたりもする。

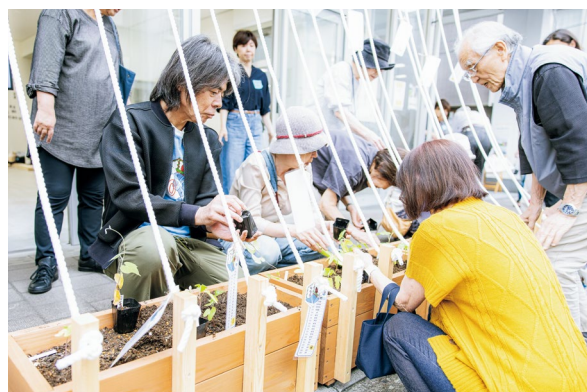
ガラス張りで外から丸見えの一階を覗き込むと、中はいたってモダンな空間。教室的でもあり、簡素なオフィスふうでもあり……中に入ってよく見ると、デスクも椅子もパーテーションもキヤスター付きの可動式。そう、ここは固定しないことをモットーとする空間なのだという。もちろん、土俵ありません。「美術館もそうですが、どうしても場＝建物になってしまふ。藝大部屋は、あくまでも藝

大が地域や社会に開いたネットワークの中のひとつのハブ（拠点）。地理的な地域と、それを超えた国際的なネットワークの中にあるものと捉えるのがいいと思うので」と今村先生。続いて「この親方、女将、それと……番頭？」と紹介されたのが、現在の藝大部屋のコアメンバーたち。親方・木戸龍介さんは彫刻科出身のアーティスト。GAPとタイのシラパコーン大学でW博士号を取得し、国際的なアートプロジェクトなどに関わってきた経験から、特任准教授に着任した。

「ここでは『ケア・コミュニケーション』『芸術教育・リベラルアーツ』『アート×ビジネス』『キュレーション』など芸術未来研究場の6つの領域の各プロジェクトを進めつつ、芸術未来研究場の情報発信も担当。藝大部屋については、どうやって機能させていこうかと、空っぽの状態から皆で知恵を出し合いながら進めてきました」と木戸さん。「女将」の赤坂有芽さんは油画出身で映像やインスタレーションを、「番頭」の菊地良太さんは先端芸術表現科に学び特技のフリークライミングを



「藝大部屋」 活動中!



上:「ベンチプロジェクト」キックオフ会より。「かたい東大をやわらかくして」との東京大学アートセンター田中庸介先生(左)からの申し出に「まずは一緒に、街歩きすることから始めましょう」と日比野学長。中左:美術家・久村卓氏(中央)主宰の「刺繍 BAR / 織物 BAR at 藝大部屋」は連日大盛況。中右:ルアンルパを招いてのトークイベント「ちゃんこドローイング」では日比野学長の描いた鍋に参加者が文字や絵を追加。下:藝大部屋でのトークイベント「明後日朝顔プロジェクト」。苗は近隣へも配布。これら活動の様子は月刊『が目標』『明後日新聞』で発信中。

背景に作品制作を行うという、いずれもユニークな才の持ち主だ。

「僕たちはコミュニティプロジェクト（地域社会の解決を目的とした取り組み）の専門家ではなく、コミュニティアーティストでもありませんが、それぞれに経験を持ち、学内とも話をつなぎやすい立ち位置にいる。藝大部屋のもっとも大きなミッションは、藝大と地域の接点づくり。そうして、他大学や企業との連携といった、広い意味での社会との窓口になることを目指しています」

混ざり合い、刺激し合う場と時間

木戸さん曰く、「街に魚屋さん、八百屋さんがいるように、アーティストの活動も社会の一部であるはず」。スタジオやアトリエで作品制作や練習を行い外で発表するだけでなく、アーティストが社会とつながり、自分で場をつくり出していくことも求められている現在、これまでの教育活動では対応できなかった学生の制作や教員の取り組みを試す場としても藝大部屋を機能させたいという。

その構想において先達であり、藝大部屋の

設立に大きなヒントを与えたメンターとも呼べる存在が、インドネシアのアートコレクティブ（芸術家集団）、ルアンルパ。2000年代より環境、農業などさまざまな社会課題をテーマに独自の展開を行い、22年の『ドクメンタ』（ドイツの古都カッセルで5年に1度催される世界で最も影響力のある芸術祭のひとつ）ではアジア人初となるディレクターに就任するなど、存在感を示している。かねてより藝大や日比野学長と親交していた縁で昨年メンバー5名が藝大部屋を訪れ、トークイベントや交流会を開催した。

1998年まで長く独裁政権下にあったインドネシアでは、かつて人々が集会をする際には警察に届け出なければならなかった。ルアンルパが自分たちの創作や市民との活動のための場をつくってきたのは、そうした状況への抗議でもあった。だが、彼らのつくる場は決して堅苦しいところではない。アーティストたちがリビングを開放し、地域の人とお茶やお酒を飲んだり食事をしたりしながらおしゃべりをする「ノンクロン」を通し、コミュニティの世界観や価値を共有することを大

事に行っているという。それはまるで、かつて日本にもあった地域の寄り合いや井戸端会議のよう。そうした日常的なコミュニケーションを行う場所や機会は、実は現代社会にもっとも不足しているものであるらしい。

藝大においても、ちょっと話をうとしても、学内にはカフェやベンチがあまりない。そもそも、昨今は多くの人々が目的のために忙しく動いていて、隙間のような時間や場所がどんどんなくなっているという。

「一緒にご飯をつくって食べたり、スタジオで夜中まで飲んで意見交換し、ときにはケンカが起こったり。そういうぐちゃぐちゃしたコミュニケーションから生まれていたものは、確かに大きいと思います」と木戸さんは言う。「今、組織としての藝大がそれを許容するのは難しいかもしれません。でも、いろんな人やものが結びつく場は必要。もちろん、社会背景の異なるルアンルパのやり方を完全にコピー&ペーストはできないし、するべきではないと思うけど、彼らのアプローチから学ぶことで、藝大部屋を拠点に僕たちなりの活動ができればと思っていますんです」

東京藝術大学
GEIDAI
Ueno - Toride - Senju - Yokohama

専門を超えた協働

コラボレーション

みんながやりたいことを
できる

学内のステイ

2037とその先へ...
藝大 150周年

Universities
他大学

藝大外の人との
「過剰」について
実践できる
工場
一緒に考える、つくる

藝大生にも
他大生にもホーム

大きな意味で
Local
ASIA 諸国
海洋

人材交流
あちこち地方...

Community
Neighbors
土壌域

町全体が
キャンパスに
なるイメージ

スハダスの名前でもあり、
つながりのスキマ自身が
「藝大部屋」になれたら...

学内、外にとつてのHUB

藝大
Alumni
卒業生

卒業生とも
つながり続けたい
おに

99分野とアートがつながる

企業
Companies
Business

私たちが 「藝大部屋」の スタッフです

藝大部屋を運営するスタッフ一同勢ぞろい。
教員と学生、大学職員が垣根なく一体となっ
て活動する組織づくりも藝大としては新基軸。

李師雄太
財務会計課特任事務職員

三木麻紗子
経営改革プロジェクト課特任事務職員

赤坂有芽
芸術未来研究場特任講師

菊地良太
芸術未来研究場特任講師

小野龍一
芸術未来研究場特任研究員

木戸龍介
芸術未来研究場特任准教授

新妻葉子
芸術未来研究場特任助教

桑山智彦
経営改革プロジェクト課長

小塚直斗
芸術未来研究場特任准教授

笠原康平
経営改革プロジェクト課主任

森純平
芸術未来研究場特任准教授

瀧澤昌樹
芸術未来研究場特任講師

畑まりあ
芸術未来研究場特任助教

中山開
芸術未来研究場特任准教授

ここに来れば、必ず何か出会いや発見がある。そう感じられる場を目指して、昨年8〜9月のルアンパとの交流に続き、11月末から12月には芸術未来研究場の活動を紹介する展覧会『芸術未来研究場展』を大学美術館と藝大部屋で開催。12月には、藝大部屋にカウンターを設けてアーティストと刺繍や織物を楽しむワークショップ「刺繍BAR／織物BAR at 藝大部屋」を行った。

また、大学院国際芸術創造研究科の箕口一美研究室が東京都から受託した、フリースクールに通う子どもたちと学生が交流する「夢中ラボ」(10〜12月実施)では藝大部屋が昼食会場となり、備品の畳(3軒隣にある畳屋・クマイ商店で購入)が大活躍。さらには、谷中の谷を挟んで「隣近所」の東京大学のアートセンターと協働で行う、人とながる場としてのベンチを考える「ベンチプロジェクト」も12月にキックオフ。25年度からの本格始動に備えている。

開かれた場ゆえ、もちろん学生や教員、地域の人の参加、参画も歓迎。「学内の陳列館などのギャラリースペースや講義室ではでき

ない表現活動やレクチャーを、ここでもらうやうて組み立てられるか? それを僕たちと一緒に考え、つくりながら、お互いの領域を広げていけたら」と木戸さん。花も満開となる予定の3月29日には、「藝大さくら通り」のお披露目イベントが開催される予定だ。

やがて、日本中に「藝大部屋」が

ところ変わって(というか、もとに戻って)、上野キャンパス本部棟。芸術未来研究場のロビーとも呼べる1階の広いスペースは取材時、後期授業終了後ということもあり、静かな時が流れていた。

「ここでは各研究室や教員の作品や取り組みを展示、紹介したり、学外から来た人と打ち合わせができたり。学内の現状を体験できる場にしていきたい」と言うのは、芸術未来研究場長・日比野学長。藝大を含む国立大学法人が第4期中期目標として掲げるのは、社会が抱えるさまざまな課題に対し各大学が専門性をもって取り組むこと。「アートは生きる力」を核にした芸術未来研究場は、藝大がそれに応え、実現するための組織だ。

「まずは谷根千という地域との連携から始めるけれども、藝大部屋のような機能はやがて他の地域に、全国に染み出していくと思う。実際に地方行政や地方大学との連携は増えていて、藝大としては、47都道府県に47の分校をつくるというビジョンも持っています」

地域と混ざり合い、そこに生きる人のさまざまな課題を解決する。「それは芸術の得意とするところ。なぜなら、アートの答えはひとつじゃないから」と、日比野学長は続ける。「自分らしいものをつくりなさいというアートの指導方針は、地域らしさをつくることにもつながる。地域と藝大が組んで新しい地場産業を生み出し、地域にいる藝大卒業生や美大、音大卒業生のキャリア支援も含めて、人材を育成していく……それは、まさに芸術未来研究場が実現させようとしていること。アートの手法で地域の課題を次のフェーズに動かす、そういうことが各地で、これからできていくのではないかと思いますね」

ひとりひとりの創造する力がつながり、社会を変える。目指す未来が、小さな部屋の向こうに少しずつ姿を現しはじめている。

🌀 お知らせ 🌀

今後の催しや大学のさまざまな取り組みを紹介

若いアーティストの活躍の場を 守り続けていくために 奏楽堂の大改修にご支援を

奏楽堂大規模改修に向けて寄附を募集しています。

1998年に竣工した奏楽堂は、本学における学生・教員の教育研究や成果発表を支える唯一無二の芸術拠点として、古典から現代まで多彩な音楽文化を支えてきました。また近年では、美術・音



楽・映像の枠を超え、総合的な舞台芸術の創造と発信にも取り組んでいます。

しかしその設備は、建築年数の経過や使用頻度の高さから、老朽化が著しく進んでいます。正面扉の開閉不良や客席の損傷、舞台装置の動作不良など、見た目にはわ



かりにくい、数々の不具合が発生している状況です。

これらを改善するため、30周年を迎える2028年度から複数年にわたる大規模改修を予定しています。しかしながら大学自体の予算や国からの補助金だけでは、およそ10億円が不足する見込みです。

そこで、大規模改修に向けた寄附の募集を開始しました。一定金額以上を寄附していただいた方には、奏楽堂座席へのネームプレート設置やホワイエに掲示予定の特別看板へのお名前刻印、特別コンサートへのご招待など、いくつかの特典を用意しています。興味をお持ちいただいた方は、ぜひ特設ウェブサイトにアクセスしてください。学生や若いアーティストにとつての、最高の場と機会を守り続けていくために、あなたのご支援を、どうかお願い申し上げます。



詳しくはこちら
<https://www.fund.geidai.ac.jp/projects/sogakudo-sos/>

◎ 藝大アートプラザで『Art Jungle ～ 藝大動物園 ～』展
開催

上野キャンパス構内にある、藝大アーティストの作品を展示販売するギャラリー「藝大アートプラザ」では、3月23日～5月25日に展覧会『Art Jungle ～ 藝大動物園 ～』を開催。アートによる、アートにしかできない動物園です。藝大アーティストたちがつくりだすアートジャングルをお楽しみください。入場は無料。詳しくは公式ウェブサイトをご覧ください。



ださ。 <https://artplaza.geidai.ac.jp/>

大学美術館（上野）の
展覧会

◎ 本館

特別展 『相国寺承天閣美術館開館40周年記念 相国寺展—金閣・銀閣 鳳凰がみつめた美の歴史—』
3月29日～5月25日

◎ 陳列館

Parallel Circuit

3月20日～4月6日
音はいつ、音になる？
3月20日～4月6日

集まって住む

元倉真琴展

6月1～8日

不和のアート…芸術と民主主義

vol. 3

6月13～15日

日本画第二研究室 素描展

会期未定

工芸総合演習 2025

7月11～16日

TOKYO Mountain College (仮)

7月25日～8月3日



大学美術館 本館



陳列館

うるしのかたち展 2025

会期未定

日本画第一研究室 研究発表展

会期未定

4芸大染織交流作品展 2025

「つながる糸ひろがる布」

会期未定

奏楽堂（上野）の演奏会

同声会新人演奏会

4月19・20日 各14時

2000円

藝大フィル定期 第427回

4月24日 19時

4000円

藝大定期 第428回

新卒業生紹介演奏会

5月17日 15時

3000円

管打楽器シリーズ2025

5月18日 14時

一般 3000円

学生 1000円

モーニング・コンサート 第1回

5月22日 11時

一般 1500円

台東区民割 1200円

弦楽シリーズ2025

5月25日 15時

一般 3000円

学生 1000円

モーニング・コンサート 第2回

5月29日 11時

一般 1500円

台東区民割 1200円

創造の杜2025

6月6日 19時

4000円

モーニング・コンサート 第3回

6月12日 11時

一般 1500円

台東区民割 1200円

藝大シンフォニーオケ定期 第71回

(藝大定期 第429回)

6月12日 19時

一般 2500円

高校生以下 500円

藝大チェンバールオケ定期 第45回

6月14日 15時

2500円

モーニング・コンサート 第4回

6月19日 11時

一般 1500円

台東区民割 1200円

モーニング・コンサート 第5回

6月26日 11時

一般 1500円

台東区民割 1200円

モーニング・コンサート 第6回

7月3日 11時

一般 1500円

台東区民割 1200円

藝大第九

チャリティコンサートvol.9

7月6日 15時

5000円

藝大ウィンドオケ定期 第99回

7月9日 19時



奏楽堂

一般 3000円

学生 1000円

モーニング・コンサート 第7回

7月17日 11時

一般 1500円

台東区民割 1200円

モーニング・コンサート 第8回

7月24日 11時

一般 1500円

台東区民割 1200円

モーニング・コンサート 第9回

7月31日 11時

一般 1500円

台東区民割 1200円

ジャズin 藝大2025

9月13日 15時

一般 5000円

学生 2000円

*一部の公演を除き、全席指定

*展覧会・演奏会の名称、会期・

日時などが変更になる場合があります。

最新情報は、東京藝術大学

公式ウェブサイト(<https://www.geidai.ac.jp/>)をご覧ください。

*展覧会についてのお問い合わせ

東京藝術大学美術館

☎050-5541-8600

(ハローダイヤル)

*演奏会についてのお問い合わせ

東京藝術大学演奏藝術センター

☎050-5525-2300

*演奏会チケットの取り扱い

ヴォートル・チケットセンター

☎03-5335-1280

チケットぴあ

<https://tpia.jp/>

東京文化会館チケットサービス

☎03-5685-0650

イープラス

<https://eplus.jp/>

東京芸術大学生協同組合(店頭

販売のみ)

☎03-3828-5669

○藝大基金寄附者ご芳名

東京藝術大学基金(藝大基金)へ温かいご支援を賜り、深謝申し上げます。本号では、2024年8月から12月までに寄附をいただいた皆様のご芳名を掲載させていただきます(掲載をご承諾された方のみ)。

[個人の皆様]

馬場渉様 1000万円	川村陽子様 1万円	三浦尚之様 5000円	鈴木幸光様
金延純男様 100万円	齋藤洋様 1万円	湯浅富士郎様 5000円	隅出直美様
村田一彦様 100万円	椎葉裕子様 1万円	高野昭子様 3000円	関悠樹様
池本佳代子様 50万円	島田祐子様 1万円	河野里香様 2000円	高田大輝様
小池ちとせ様 50万円	杉浦俊太郎様 1万円	牛田尚様 1000円	高橋和美様
山崎正勝様 50万円	高橋直人様 1万円	藤代國忠様 1000円	高橋匡子様
吉田隼人様 50万円	高橋秀子様 1万円	米村あずさ様 1000円	田尻比呂子様
佐藤隆幸様 36万5000円	谷口浩一様 1万円	朝蔭孝宏様	趙誠峰様
佐橋俊彦様 30万円	席屋正様 1万円	岩渕重人様	徳永尊彦様
河原茂晴様 10万円	中出睦様 1万円	宇佐美敏男様	中村恵子様
木下裕一郎様 10万円	中野真吾様 1万円	内田薫様	西村裕子様
眞壁幹夫様 10万円	中村篤様 1万円	海老裕子様	福島武様
山本清様 10万円	野嶋哲様 1万円	大川聡様	古谷孝行様
山本はるみ様 10万円	原田一正様 1万円	奥村康様	堀内豊太郎様
富澤儀一様 5万円	疋田妙子様 1万円	加藤有治様	榊隅茂様
原田真粧美様 5万円	福田典子様 1万円	北川翔一様	水落あゆみ様
吉澤文五郎様 5万円	堀全様 1万円	窪田健志様	宮島恵一様
保科弘毅様 3万円	本多佐保美様 1万円	古賀崇様	村田恵理様
松延瑞穂様 3万円	本多正和様 1万円	小林裕之様	山本武史様
山縣宏人様 3万円	前田周一様 1万円	小松崎彰様	吉田道雄様
李匡鎬様 1万円	松岡暢子様 1万円	坂井登志子様	依田晃宣様
磯貝紀枝様 1万円	三谷圓様 1万円	塩谷佳子様	
伊藤アスカ様 1万円	村上徳子様 1万円	清水晴雄様	
今井菜々美様 1万円	吉田正様 1万円	酒々井夏子様	
上田武夫様 1万円	渡邊雅子様 1万円		
内田隆一様 1万円	及部保雄様 6000円		
江原久子様 1万円	寺谷あゆ美様 6000円		
荻野正夫様 1万円	蟻川隆正様 5000円		
飯屋園伸様 1万円	緒方弘子様 5000円		
川津五月様 1万円	松山実様 5000円		

[法人などの皆様]

株式会社平成建設様 300万円
車折神社様 50万円
大興商事株式会社様 4万円
五反野メンタルクリニック様 1万円

○藝大基金のお願い

「藝大基金」は、東京藝術大学の長期的・安定的な財政基盤として、教育研究活動や社会連携活動の一層の発展と、我が国における芸術文化の振興などに資することを目的に設立されました。各種プロジェクトなどの実施と、学生へのさらに充実した支援体制を築くため、広く地域社会や企業などの皆様からご寄附を募っております。藝大基金の趣旨にご理解をいただき、ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

☎お問い合わせ

社会連携課渉外企画係 ☎ 050-5525-2400

藝大基金ウェブサイト <https://fund.geidai.ac.jp/>

☎編集部より

『藝える』編集部では、皆様からのご意見・ご感想などをお待ちしています。今号の内容についてのご感想や、今後のご要望などありましたら、こちらまでお寄せください。

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

東京藝術大学内 『藝える』編集部

Fax : 03-5685-7760

E-mail : contact@ml.geidai.ac.jp